



浦和大里小学校だより

11月号 令和6年10月31日発行

教育目標
夢と希望をもち、
人間性豊かで
心身ともに
たくましい子の育成



五感全開！

校長 中野 緑

心地よい秋風のもと、子どもたちの一生懸命な姿に心が弾む運動会でした。たくさんの応援とご協力をありがとうございました。行事を通してどのような力をつけたいのか目的をはっきりとさせ、子どもたちが達成感を感じられるような働きかけをしていきたいと常々思っているところです。

小学校生活の大きな行事の一つである館岩自然の教室に、5年生が行ってきました。以下、日記からの抜粋です。

- ・一番心に残ったのは登山です。「大丈夫かい？」と声をかけてくれたり「疲れた」といいながらすぐ笑顔で登ったりしている友達に元気をもらいました。
- ・みんなが思い思いに行動してしまっていて時間に間に合わなくなりそうな場面であまり注意ができず、室長をやめたくなっていました。ですが、思い切って部屋の人に話をしたら一人ひとりが意識して行動し、気持ちよく過ごせるようになりました。
- ・マイムマイムを楽しく踊ることができた。初対面の人とも仲良くなれて嬉しかった！
- ・魚さばきでは、命をいただいていることを実感しました。
- ・焼き板は目が痛くなって「ムリ」と思いかけたけど、みんなで力を合わせてめちゃくちゃ思い出に残る活動になった。

親と離れて、子どもたちだけで過ごす3日間です。4月から、5年生にかかわる職員は、実りある体験にしようと「やるべきことはちゃんとやる」「自分たちで声を掛け合って行動する」ことを繰り返し、指導してきました。思春期にさしかかった多感で吸収力にあふれたこの時期に、非日常的な空間の中で、友達と助け合って集団生活を送ることから学ぶことは数多くあったと思います。子どもによっては、友達と協力したり、時には折り合い（譲り合って調整すること）をつけたりすることを学んだことでしょう。また、規律正しく行動する気持ちよさや、命の尊さを学んだ子もいたでしょう。様々な学びの中で、子どもたちは社会性や自尊感情を身につけていくものです。

通常の学校生活でも、子どもたちの体験を大切にしています。例えば、社会の「くらしと水」の学習で手を洗う時にどれだけ水を使うのか量ってみたり、算数の「ものの量」でデシリットルマスに水を入れて体積を確かめてみたり、家庭科で野菜を炒めたりするなどは、教科の学習を進める上で欠かすことのできない「体験」です。子どもたちが五感全開にして、直接事物・対象に働きかけ、かかわることによって、たくさんの効果が生まれると考えています。また、自分から知りたくて質問したことについては、相手がどのように答えるか漏らさず聞き取ろうとします。反対に、一方的に浴びせられる言葉は、なかなか耳に入ってきません。「聞いたことは忘れる、見たことは覚える、体験したことは理解する」といいますが、自ら働きかけ、五感全開で体験したことは、子どもたちの体に染みいり、生きる力となっていくと信じています。